

放送ストリーミング情報収載

放送ストリーミング情報【2015No.58】(HP 収載)

分類：TV

局等：地デジ E テレ

作曲家：ヨハン シュトラウス 2 世他

曲名：Ouvverture zu Eine Nacht in Venedig (Wiener Fassung)他

演奏：マリス・ヤンソンス指揮ウイーンフィル

関連サイト：

ウイーンフィルホームページ

<http://www.wienerphilharmoniker.at/jp/new-years-concert/new-years-concert-main>

<http://www.wienerphilharmoniker.at/jp/concerts/concert-detail/event-id/9495>

NHK オンライン

<http://www.nhk.or.jp/classic-blog/100/232219.html>

概要：

2016年1月1日、ウイーン楽友協会大ホールでの演奏です。ウイーンフィルは2016年で創立75周年を迎える記念の年の幕開けの演奏となります。CD, DVD, BD も発売予定とのことです。

[http://www.hmv.co.jp/en/artist\\_New-Year-s-Concert\\_000000000428282/item\\_2016-Jansons-Vpo\\_6728447?site=oricon](http://www.hmv.co.jp/en/artist_New-Year-s-Concert_000000000428282/item_2016-Jansons-Vpo_6728447?site=oricon)





演奏された曲目は次のとおりです。

- (1) 国連行進曲
- (2) 宝のワルツ 作品 418
- (3) フランス風ポルカ 「ヴィオレッタ」 作品 404
- (4) ポルカ 「観光列車」 作品 281
- (5) ワルツ 「ウィーン娘」 作品 388
- (6) ポルカ 「速達郵便で」 作品 259
- (7) 歌劇 「ヴェネツィアの一夜」 序曲 [ウィーン版]
- (8) ポルカ 「羽目をはずして」 作品 168
- (9) ワルツ 「天体の音楽」 作品 235
- (10) フランス風ポルカ 「歌い手の喜び」 作品 328
- (11) ポルカ 「休暇旅行で」 作品 133
- (12) 喜歌劇 「ニネッタ侯爵夫人」 第3幕への間奏曲
- (13) ワルツ 「スペイン」 作品 236

- (14) ワルツ 「舞踏会の情景」
- (15) ため息ギャロップ 作品 9
- (16) ポルカ・マズルカ 「とんぼ」 作品 204
- (17) 皇帝円舞曲 作品 437
- (18) ポルカ「狩り」 作品 373
- (19) ポルカ「突進ポルカ」 作品 348
- (20)ワルツ『美しく青きドナウ』 作品 314
- (21)ラデツキー行進曲 作品 228

昨年と同様、BZT-9000 で録画しながら並行して TASCAM DA-3000 で 5.6KHzDSF で録音しました。( ) 内は GPS-777 からのクロック入力周波数です。

**BZT-9000→CCV-5 (96KHz) →iPhono→DA-3000 (44.1KHz)**

今回は、昨年以降入手したパワーリベラメンテとタップリベラメンテおよびフィルタライザーを総動員しています。BZT-9000、CCV-5、DA-3000 および GPS-777 の電源はタップリベラメンテから取り、DA-3000 の電源ケーブルはパワーリベラメンテに交換し、CCV-5 と GPS-777 にはフィルタライザーを、BZT-9000 には自作フィルタライザーを使用しています。

再生の方は BS 録画と TASCAM DA-3000 により DSD 録音したものについて行いました。

**BZT9000→CCV-5 (96KHz) →micro iDSD→DA-3000 (44.1KHz) →MYTEK DIGITAL 192-DSD (DA-3000 よりクロック供給)**

**PC→【HiFi Noise Filter】→micro iDSD→DA-3000 (44.1KHz) →MYTEK DIGITAL 192-DSD (DA-3000 よりクロック供給)**

**HD-LSU2D→【ES-OT4】→PC**

CCV-5 には GPS-777 から、DA-3000 には ABS-7777 からクロックの供給を行っています。

DSD 録音音源の再生では Hi-Res Editor により DSD Native で micro iDSD に送り出します。

まず、演奏の方ですが、ヤンソンスはこのコンサートは 3 度目ということでいかにも手慣れた指揮でオケとの呼吸もぴったりです。一方、ウイーンフィルの方はコンサートマスターはシュトイデが務め、メンバーに若手と女性が多く見られました。

録音したものの再生音の方は、低音が響きすぎるくらいになっており、環境ノイズが非常にリアルです。2014年、2015年のDSD録音と聴き比べても弦の高音はしなやかに、コントラバスの低音はより迫力を増しています。

BZT9000 の録画を再生では、2013年、2014年、2015年の録画と聴き比べますと、年ごとに音の肌理が細かくなっていますが、2015年から2016年の変化が一番大きいようです。これは、送り出しの方の音質向上もあるかもしれませんが、本年はBZT9000

の電源をタップリベラメンテから取り、フィルタライザーを適用したことが効いている  
ものと思われます。

なお、再放送の予定は1月11日深夜となっています。

<http://www4.nhk.or.jp/P2992/>